

結城農業かわら版

第164号

令和6年6月20日

発行元：結城地域農業改良普及センター

TEL：0296-48-0184

FAX：0296-48-2682



QRコードから
HPにアクセス

八千代町ブドウ研究会が栽培管理について意見を交換

5月16日、八千代町のブドウほ場において、八千代町ブドウ研究会の現地研修会が開催されました。

八千代町では、令和5年6月に、町の活性化と担い手の所得確保、栽培技術向上を目的に「八千代町ブドウ研究会」が設立され、町・普及センター・JAが協力し、新規ブドウ栽培導入に関する支援体制を整備してきました。普及センターでは、主に栽培技術や研修会の企画等について支援を行っています。

今回の研修会は、農業総合センターの専門技術指導員を招き、研究会員のほ場を八千代町産業振興課と普及センターで巡回し、各園の状況に合わせた情報交換を行いました。

巡回した3名はブドウ導入2～4年目で、うち1名は、今年から本格的に収穫が始まります。各園ともに生育は順調で、参加者は、管理方法や導入品種について熱心に意見交換していました。

八千代町では、栽培導入者の安定栽培や、地域の生産を活性化するため、ブドウ研究会の活動として、今後とも研修会や見回り会を開催する予定です。普及センターとしても、町と連携し、ブドウ生産者の組織活動支援を行っていきます。



巡回したほ場で研修中の
研究会員と関係機関

農業経営士が県立農業大学校生の実習を受入れ

常総市の農業経営士2名が、6月3日から7日までの5日間、就農を志向する県立農業大学校園芸部の1年生5名に対し、先進農業派遣実習（短期）の受入を行いました。

学生たちは、日頃学内では経験できないネギの調製出荷や、観光イチゴ園での摘果作業等を経験し、農業の現場を知る貴重な学びの機会となりました。

農業経営士の皆様には、引き続き、就農志向者への各種支援活動のほど、よろしくお願いいたします。



実習で作業を学ぶ学生たち

県立農業大学校「体験入学」のご案内

茨城県立農業大学校では、農業に関する幅広い知識と高度な生産・経営技術を学ぶことができます。今年も学校の様子や各学科・コースを知ってもらうために体験入学を行います。興味のある方はぜひ農業大学校までお問合せください。

【お問合せ先】

〒311-3116

茨城県東茨城郡茨城町長岡4070-186

茨城県立農業大学校

TEL：029-292-0010 FAX：029-292-0903

これから多発が予想されるネギネダニの防除について

ネダニは「ロビンネダニ」が主要な加害種で、約0.7mmの洋ナシ形で半透明乳白色の害虫です。土に埋まった根と葉の基部にある盤茎部を加害します。加害された株は生育不良となり、加害が進むと枯死してしまいます。

ネダニは4～7月の暖かくなってきた時期に発生が増加し、特に秋冬作型で問題となります。被害を受けた残渣は次の発生源となるため、すき込まず持ち出しましょう。

また、酸性土壌での発生が多い傾向にあるため、pH6～7程度に土壌酸度の矯正を行いましょう。その他、未熟堆肥を使用した場合も発生しやすく、注意が必要です。

薬剤による防除は、生育初期が重要となります。定植前に粒剤による土壌処理を行い、定植後一か月程度を目安に予防を目的とした薬剤を処理します。土寄せ後は薬剤が届きにくくなるため、土寄せ前にしっかり防除しましょう。



被害を受けたネギ



ネダニのすがた

(引用：病害虫・雑草の情報基地)

作用機構分類	農薬名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	成分名：成分使用回数
1B	ラグビーMC粒剤	20kg/10a	全面処理 土壌混和	定植前	1回	カスサス：1回
3A	フォース粒剤	9kg/10a	作条土壌混和	定植時	1回	テフルリン：2回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は1回以内)
		6～9kg/10a	株元散布	収穫30日前まで	1回	
4A	ダントツ粒剤	6kg/10a	株元散布	収穫3日前まで	4回以内	クロアニン：4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内)
16	アプロードフロアブル	500～1000倍 (1～3L/m ²)	株元灌注	収穫14日前まで	1回	プロフェジン：1回
1B	トクチオン乳剤	2000倍 (3L/m ²)	株元灌注	収穫7日前まで	3回以内	プロオホス：4回以内(但し、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び株元灌注は合計3回以内)

●資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください(農薬登録確認日：令和6年5月15日)。

●農薬散布時には、風向、風速、散布位置やノズル方向等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないように行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

●農薬の新しい安全性評価導入等にもとない、直ちに使用方法を変更するように注意喚起される場合があります。その場合は、ラベルの使用方法ではなく、変更後の使用方法に従って使用してください。注意喚起の有無は、農薬の購入先や茨城県病害虫防除部のホームページ等で確認してください。

農作業中の熱中症を予防しましょう！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です！

【予防のポイント】

- 暑さを避ける(高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業)
- こまめな休憩と水分補給(のどの渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給)
- 単独作業は避ける(複数名で作業を行う。時間を決めて連絡をとり合う)
- 熱中症対策アイテムの活用(帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用)

『熱中症が疑われる場合には』

○01 作業を中断

(代表的な症状：汗をかかない、体が熱い、めまい、吐き気、頭痛。
倦怠感、判断力低下)

○02 応急処置(涼しい環境へ避難。衣服をゆるめ体を冷やす。水分・塩分を補給)

○03 病院へ

(応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診察を受けましょう！！)

